放射線治療事故報告書

日本放射線腫瘍学会理事長殿

報告年月日　: 　　年　　　月　　　日

[報告者]

　事業者の名称及び所在地

　責任者氏名：　　　　　　　　　　　所属：

連絡先：電話番号（　　　　　　　　）Email:（　　　　　　　　　　　　　）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 患者 | イニシャル |  | 性別 |  |
|  | 年齢 |  |  |  |
| 事故の概要 | 発生日時 | 年　　月　　日 | 発生場所 |  |
| 概要（原因・経緯・線量の過誤の有無・有なら予定総線量との相違） |
| 障害の影響度分類（次頁添付表参照） | レベル０・レベル1・レベル2・レベル3a・レベル3b・レベル4a・　　レベル4b・レベル5 |
| AAPMの分類（添付表参照） | クラスⅠタイプA・　クラスⅠタイプB・　クラスⅡ |
| 事故後の対応 | 治療の概要等： |
| 公表の有無 | あり（予定・公表済：　　　年　　　月　　　日　）/　なし |
| JASTROへの依頼希望事項 | 以下のうち、ご希望のものに〇を付けて下さい。第三者調査　　/　委員推薦（委員数：約　　名）/その他報告 |

**注：上記報告頂いた事故事例に関する教育的事項に関しては、当会会員専用サイト等で、当該施設名等を伏せ、個人情報に配慮し、会員への周知に利用させていただきます。**

[添付表]

影響度分類

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| レベル | 障害の継続性 | 障害の程度 | 障害の内容 |
| レベル5 | 死亡 |  | 死亡（原疾患の自然経過によるものを除く） |
| レベル4b | 永続的 | 中等度～高度 | 永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う |
| レベル4a | 永続的 | 軽度～中等度 | 永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない |
| レベル3b | 一過性 | 高度 | 濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など） |
| レベル3a | 一過性 | 中等度 | 簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など） |
| レベル2 | 一過性 | 軽度 | 処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた） |
| レベル1 | なし |  | 患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない） |
| レベル0 |  |  | エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった |

AAPM TG-35の放射線治療過誤照射分類

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| クラス | タイプ |  |
| クラスⅠ | 障害の可能性がある場合 |
|  | タイプA | 過線量が照射されたことで、患者の生命を脅かす障害に直接関与する可能性がある場合。照射された臓器と線量（１回線量と総線量）から決定。目安としてCritical Organ の耐容線量の25％以上の過線量が照射された場合、など |
|  | タイプB | 過線量が照射されたことで、患者の生命を脅かす程ではないが障害がおきる可能性がある場合。目安として各臓器の耐容線量の5～25%相当の総線量が過剰照射された場合で、以下の３つに分ける。なお、過小線量が照射された場合もType B とする。 |
| クラスⅡ | 障害の危険性が少ない場合 |